# 帝京大学 2022 年度 後期公開講座　帝京ライフロングアカデミー　講座概要

受講料無料　WEB 申込み　**※申込締切 2 月 12 日（日）**

## ○日 時　2 月 25 日（土）　10：00～11：30

| No. | 講座概要 |
|---|---|
| 1 | **多文化社会のコミュニケーション**<br>**～いろいろな日本語、いろいろな言語で生きる私たち～**<br>講師：有田　佳代子（日本語教育センター　教授）　**※定員：30 名**<br>わたしたちは、日ごろからどんな言葉を使っているでしょうか。「日本語」と一言で言っても、家族内だけで通じる言葉、方言やあたたかい感じのくだけた言葉、ビジネス場面でビシッと使う言葉、出身地にいる昔の友人と話すときの言葉、子どもと話すときの言葉、聴力が弱くなったお年寄りと話すときの言葉、外国出身の同僚や友人と話すときの「やさしい日本語」…。また、英語をはじめ外国語を使う場面も多くなりました。さらに、手話（sign language）を使う人たちも多く見かけます。あるいは、多くの言葉を「ちゃんぽん」で使う場面もありそうです。さらに、翻訳機なども駆使しつつ、相互に別言語を使いながら極めてスムーズで、かつ質の高いディスカッションが成立する場面もあるでしょう。<br>このように考えても、わたしたちが暮らす日本社会は「単一言語社会」ではありません。本講座では、多文化社会構築のキーワードともなる「複言語主義/教育」と日本語教育について、受講生のみなさんと考えていきたいと思います。 |
| 2 | **1960 年代日本における「おふくろの味」～和食を食べたがる夫と洋食を作る妻～**<br>講師：大野　雅子（外国語学部外国語学科　教授）　**※定員：30 名**<br>「おふくろの味」は読売新聞 1963 年の記事が初出です。男性記者が故郷のお母さんが作ってくれた「ヒジキの煮物」をなつかしがっているのです。この記者の郷愁の意味を、1960 年代日本を探ることで解明しませんか？「サラダ」が斬新な料理だった時代です。東京では地方出身の男性が急増した時代です。男性たちは、家庭では「おふくろの味」を再現してもらえなかったのでしょうか？ 妻たちはなぜ洋食を好んだのでしょうか？<br>本講座では皆様にとっての「おふくろの味」をお聞きしたいと思っております。また、その背景となるエピソードなどありましたら、ぜひお聞かせください。 |
| 3 | **楽器で音楽的コミュニケーション～心と身体を解放してつながろう！～**<br>講師：田﨑　教子（教育学部初等教育学科　教授）　**※定員：20 名**<br>全ての人の心と身体が健康であることを目指して、音楽療法の概念を基に、リラックスした雰囲気の中で、リフレッシュできる活動を行います。声を出したり楽器を奏でたりしながら、音楽的にコミュニケーションを図り、他者と音楽を共有する喜びを体感し、自己表現を実現できる場にします。学校で音楽教育を受けた後、日常的に音楽に触れる機会が減ってしまった方に、音楽する機会を与え、質の高い音楽活動を通して、音楽が誰にとってもアクセスしやすい媒体であること伝えます。また、音楽する者が増えることにより、殺伐とした今日の社会がより豊かになることを目指します。<br>本講座では身体を動かす活動を伴うため、動きやすい服装でご参加ください。 |
| 4 | **本当に 2030 年までに SDGs は目標達成できるの？**<br>**～注目されるいくつかの取り組みを中心に～**<br>講師：永井　リサ（経済学部経済学科　講師）　**※定員：30 名**<br>「SDGs（エスディージーズ）)」とは、2015 年 9 月の国連サミットで採択された 17 の目標である「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標)」の略称で、2030 年までに到達すべき国際社会共通の目標とされています。例えば SDGs13「気候変動に具体的な対策を」については、今年 6 月から国連と日本のメディア 108 社で「1.5°Cの約束」というキャンペーンが行われています。このキャンペーンをはじめ、他の注目される SDGs の取り組みを紹介し、「身近な SDGs の実践」について考えていきたいと思います。<br>当日は筆記用具をご持参ください。 |

## ○日 時　2月27日（月）　10：00～11：30

| No. | 講座概要 |
|---|---|
| 5 | **辞世の句にみる死生観～生き生きと暮らすためのヒントを探る～**<br>講師：コルネーエヴァ・スヴェトラーナ（文学部日本文化学科　准教授）　**※定員：30名**<br>日本では、「辞世」という死ぬ前に残す最期の言葉が昔から存在し、発する人の気持ちや思想がそこに凝縮されています。歌人の西行（1118～1190年）が残した「願はくは　花の下にて　春死なむ　そのきさらぎの　望月のころ」は辞世の有名な一例です。<br>この講義では中世から近代までの様々な辞世を扱いながら、今を生きる私たちへのねぎらいやモチベーション維持につながるヒントを探っていきます。辞世というと男性が発するイメージが強いが、女性が残したものもあります。さらに海外の例も紹介しながら、クイズを交えて楽しく学んでいきます。<br>資料を用意しますので、筆記用具のみご持参ください。 |
| 6 | **経済新聞の読み方**<br>講師：山本　博幸（短期大学現代ビジネス学科　教授）　**※定員：30名**<br>ニュースが氾濫しています。<br>その中に本当に重要な情報が含まれていますが、むしろ見落としていませんか。そんな問題意識をもっています。<br>日々の生活の中にある変化や将来への大切な準備という観点で、手に入りやすい経済新聞をどのように読んだら本当に役に立つだろうかという観点からお話します。 |
| 7 | **教養としての防災～自分を、家族を、友人を、隣人を災害から守るために～**<br>講師：冲永　隆子（共通教育センター　教授）　**※定員：30名**<br>2020年以降予期せぬパンデミックの難局の時代を迎え、万が一の時、どのような医療・ケアを受けるか、さらに不測の豪雨や地震等の自然災害にどう備えていけばよいのでしょうか。共通教育センター所属の担当者が「SDGs4：質の高い」リベラルアーツ教育の実践として、前期に引き続き、環境／災害・防災／医療／メディアリテラシーの専門ジャーナリスト（元NHK社会部記者、現NHK専門委員）の濱田哲郎 外部講師を招聘して公開講座を行います。<br>理論（防災解説20分）と実践（京大クロスロード防災カード70分）を通して、「災害時の意思決定」を学びます。<br>時宜にかなったニュースに基づき、メディアリテラシーの講義と意見交換の場も用意しています。奮ってご参加ください。<br>ワークショップ（参加型体験講座）形式で行いますので筆記用具をお持ちください。 |

**事前申込制 先着順**　※定員に達した場合、申込締切前でも受付を終了させていただきます。
※12/27(火) 17時～1/5(木) 10時の期間はお申込みできません。

**申込方法：2月12日(日)までに、本学ホームページからお申込みください。**

**【会場】帝京大学八王子キャンパス　ソラティオスクエア**
**（東京都八王子市大塚359番地）**

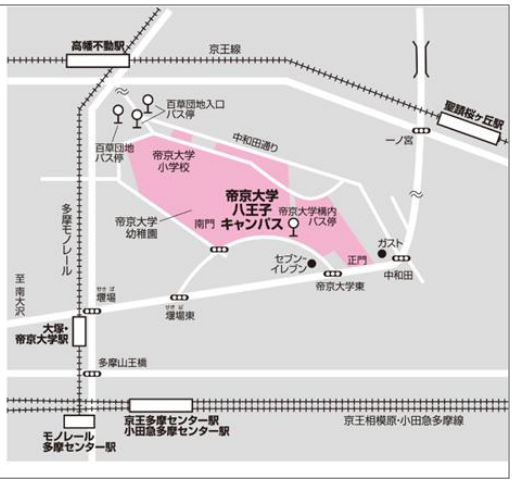
交通アクセス

・大学構内に来館者用駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

・高幡不動駅・聖蹟桜ヶ丘駅・多摩センター駅から「帝京大学構内」行きのバスが便利です（15分～20分）

感染症対策にご協力をお願いいたします。

※感染症の拡大状況によっては変更または中止となる場合があります。その際は大学HPでお知らせいたします。




【お問合せ先】八王子キャンパス　総務・企画グループ　042-678-3663（平日9時～17時）